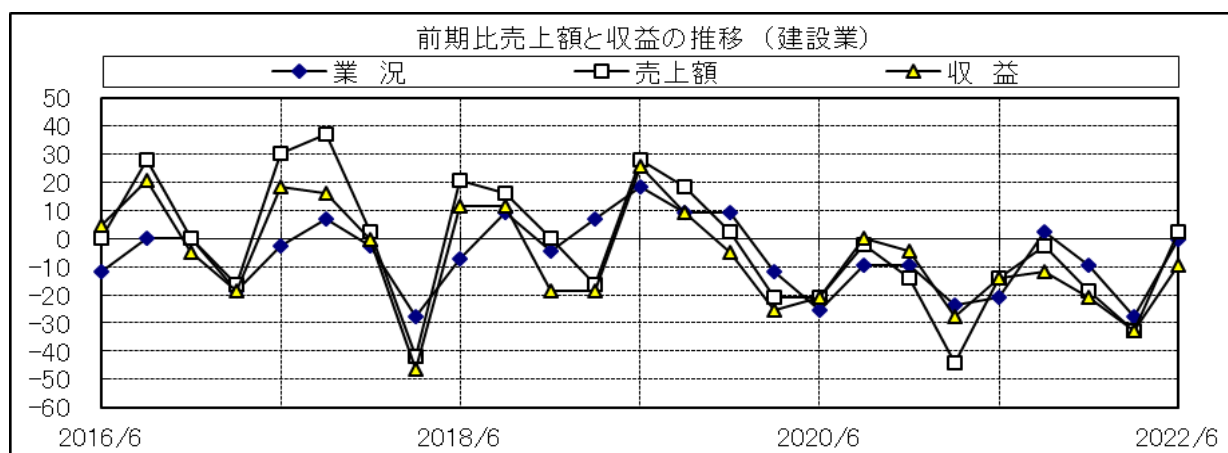


建設業 43 企業（回答率 100.00%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
業 況	-9.3	-27.8	-0.1	-2.3
売上額	-18.6	-32.6	2.3	-0.1
収 益	-20.9	-32.6	-9.3	-6.9

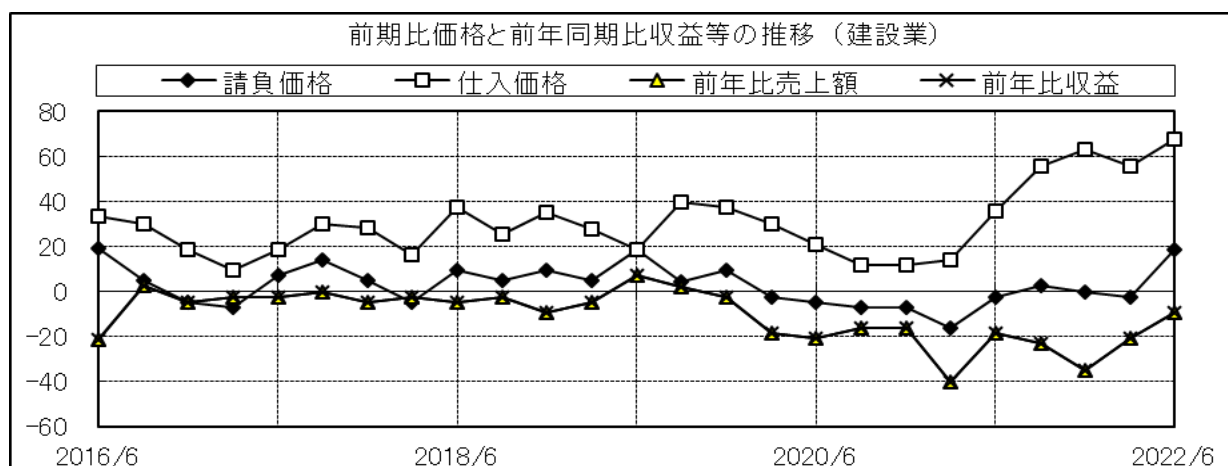
今期の業況判断 D. I. は $\Delta 0.1$ で、前期比 27.7 ポイント上昇。前年($\Delta 20.9$)比では 20.8 ポイント上昇した。地区別 D. I. の水準は高い順に、浦河・静内・広尾が同率で最も高く、次に様似、えりもと続き、三石が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は、2.3 で、前期比 34.9 ポイントの上昇。収益判断 D. I. は $\Delta 9.3$ で、前期比 23.3 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
請負価格	0.0	-2.4	18.5	21.0
仕入価格	62.9	55.8	67.5	65.1

請負価格判断 D. I. は 18.5 で、前期比 20.9 ポイント上昇。前年($\Delta 2.4$)比 20.9 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 67.5 で、前期比 11.7 ポイント上昇し、前年(35.7)比 31.8 ポイントの上昇となった。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
残業時間	-16.3	-9.4	-7.0	-7.0
人手状況	-30.3	-18.7	-28.0	-30.2

残業時間判断 D. I. は $\Delta 7.0$ で、前期比 2.4 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は $\Delta 28.0$ で、前期比 9.3 ポイント下降し、人手不足感は強まった。

□ 設備投資の動き

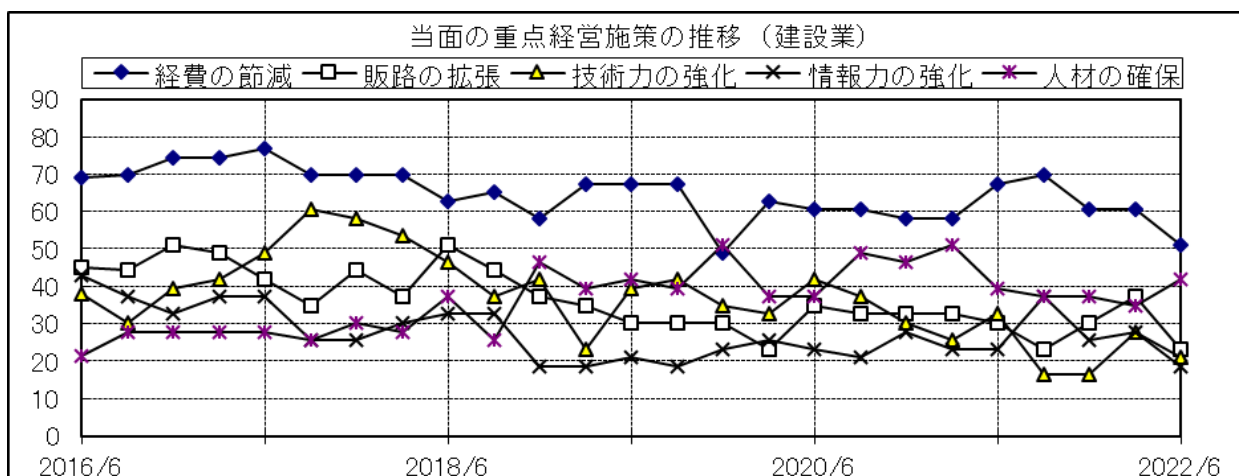
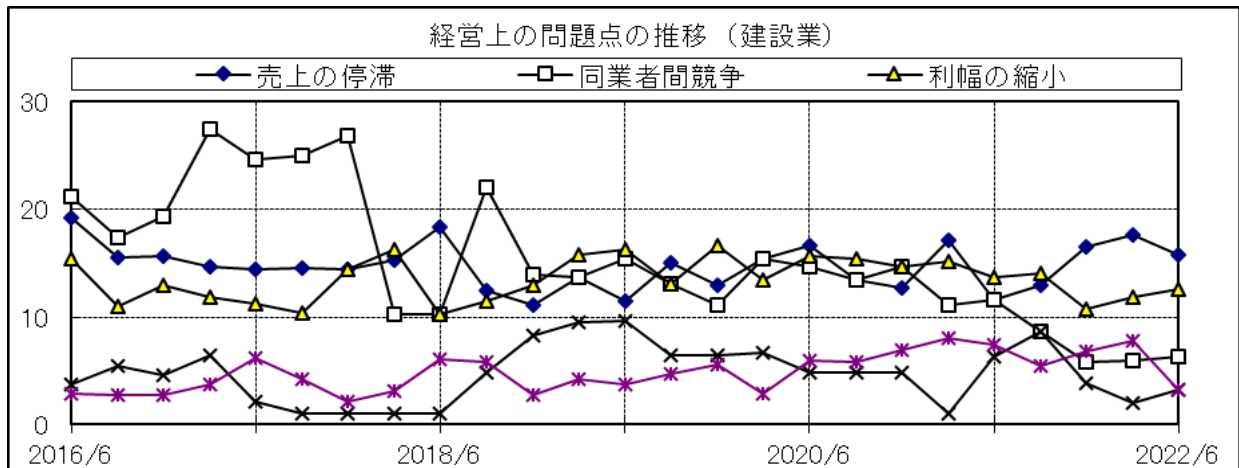
設備投資の充足感を示すD. I. は2.4で、前期(△4.7)比7.1ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は7.0で、前期(9.3)比2.3ポイント下降した。設備投資は、前期4社に対し、3社の実施となった。来期の設備投資は、3社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「材料価格上昇」が27.4%と最も多く、次に「売上停滞減少」15.8%、「人手不足」・「利幅縮小」が12.6%、「同業者競合」・「技術力不足」が6.3%、「大手企業競合」・「下請確保難」が4.2%、「人件費増加」・「天候不順」・「地場産業衰退」が3.2%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が51.2%と最も多く、次に「人材確保」41.9%、「販路拡大」23.3%、「技術力強化」20.9%、「情報力強化」18.6%、「新事業開始」9.3%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は△2.3と、今期比2.2ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I. は△0.1と、今期比2.4ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D. I. は△6.9と、今期比2.4ポイントの上昇を見通している。

予想請負価格判断D. I. は21.0と、今期比2.5ポイントの上昇を見通している。

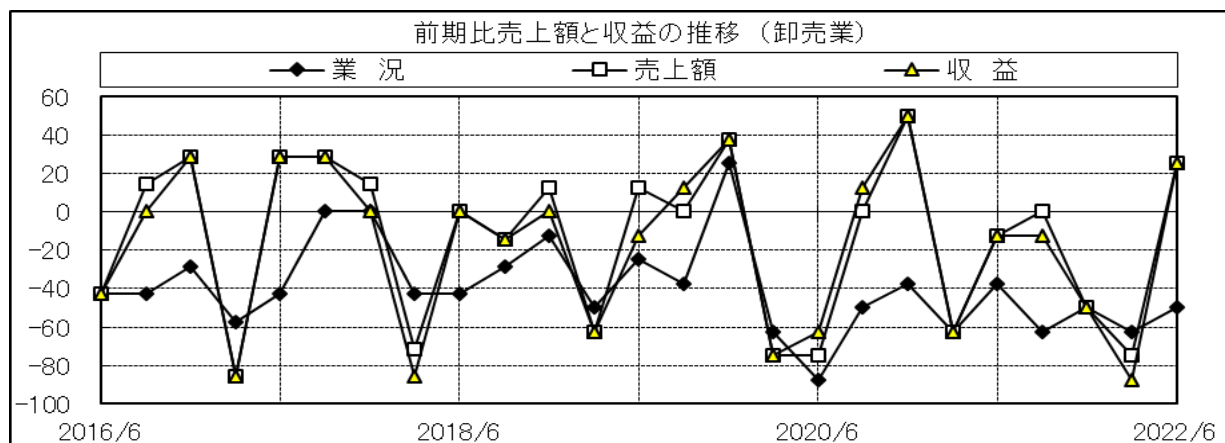
予想仕入価格判断D. I. は65.1と、今期比2.4ポイントの下降を見通している。

卸売業 8企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 景況

DI 値の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業況	-50.0	-62.5	-50.0	-50.0
売上額	-50.0	-75.0	25.0	0.0
収益	-50.0	-87.5	25.0	-12.5

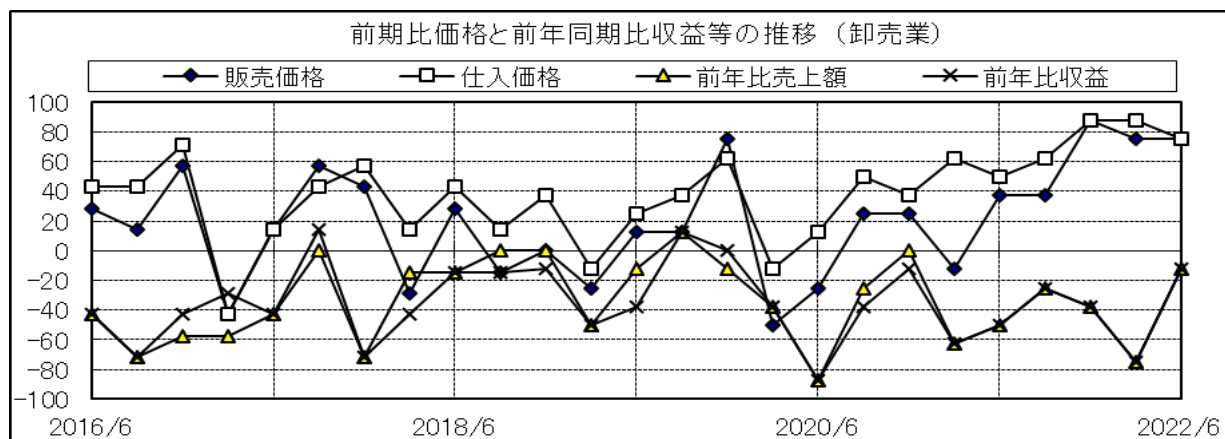
今期の業況判断 D. I. は△50.0 で、前期比 12.5 ポイント上昇した。前年(△37.5)比 12.5 ポイント下降した。地区別の水準は浦河地区で上昇し、静内・様似地区は横這いとなった。売上額判断 D. I. は 25.0 で、前期比 100.0 ポイント上昇した。収益判断 D. I. は 25.0 で、前期比 112.5 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比べた動き

DI 値の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
販売価格	87.5	75.0	75.0	62.5
仕入価格	87.5	87.5	75.0	75.0

販売価格判断 D. I. は 75.0 で、前期と同水準となった。前年(37.5)比 37.5 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 75.0 で、前期比 12.5 ポイント下降した。前年(50.0)比 25.0 ポイント上昇した。業種別では、水産業は、販売価格は横這い、仕入価格は下降した。食品業は販売価格・仕入価格ともに横這いとなった。



□ 雇用面の動き

DI 値の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	25.0	0.0	0.0	-12.5
人手状況	0.0	-12.5	0.0	0.0

残業時間判断 D. I. は 0.0 で、前期と同水準となり、残業時間の変動は無かった。

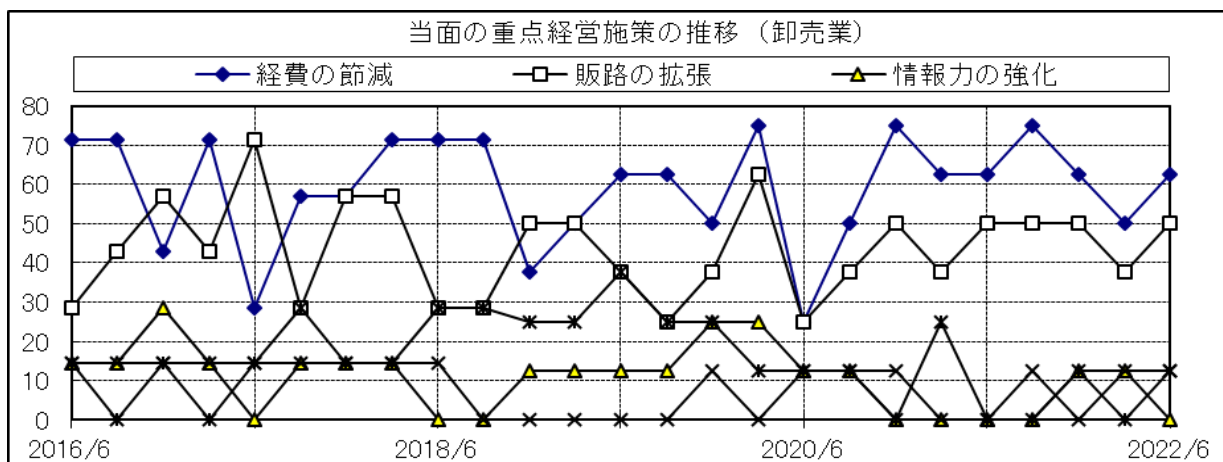
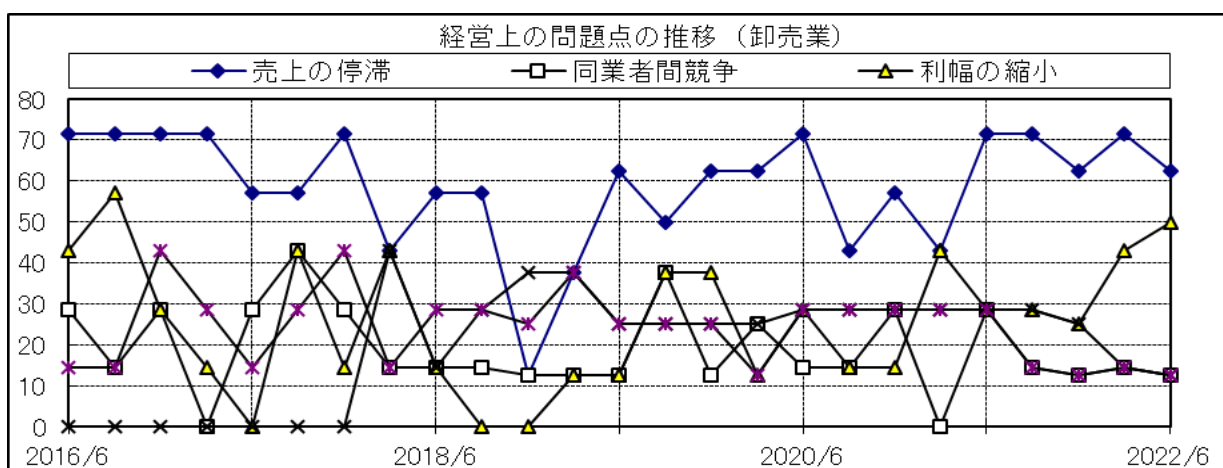
人手過不足判断 D. I. は 0.0 で、前期比 12.5 ポイント上昇し、人手不足感が強まった。

□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD. I. は0.0で、前期(0.0)と同水準となった。
 設備実施企業割合は0.0で、前期(12.5)比12.5ポイント下降した。設備投資は、前期1社に対し、0社の実施となった。来期の設備投資予定は1社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が62.5%と最も多く、次に「利幅縮小」50.0%、「値上げ要請」37.5%、「販売商品不足」・「店舗老朽化」が25.0%、「同業者競合」・「輸入商品との競合」・「扱い商品の陳腐化」・「取引先減少」・「天候不順」・「地場産業衰退」が12.5%となっている。
 重点経営施策では、「経費節減」が62.5%と最も多く、次に「販路拡大」50.0%、「品揃え充実」25.0%、「新事業開始」・「人材確保」・「流通経路見直し」・「労働条件改善」・「不動産有効活用」が12.5%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は△50.0と、今期と同水準を見通している。
 予想売上額判断D. I. は0.0と、今期比25.0ポイントの下降を見通している。
 予想収益判断D. I. は△12.5と、今期比37.5ポイントの下降を見通している。
 予想販売価格判断D. I. は62.5と、今期比12.5ポイントの下降を見通している。
 予想仕入価格判断D. I. は75.0と、今期と同水準を見通している。